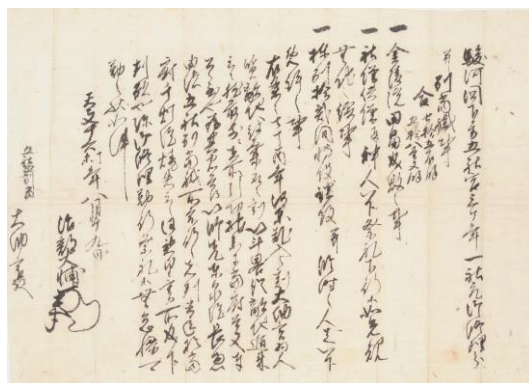


富士市指定有形文化財「富士山東泉院関係資料」について

- 1 名 称 富士山東泉院関係資料
- 2 種 別 有形文化財（歴史資料）
- 3 員 数 一括
- 4 所 在 地 富士市伝法66番地の2
(富士市立博物館)
- 5 所 有 者 富士市（一部個人蔵）
- 6 管 理 者 富士市立博物館
- 7 概 要



天文16年8月16日付 今川義元判物

富士山東泉院は、戦国時代から明治初年まで、現在の吉原公園内（今泉八丁目）に存在した寺院である。初代住持雪山から薬雄まで21代の住持によって、地域の有力寺院として護り続けられてきた。薬雄の時に、明治維新を迎え新政府の神仏分離政策の影響により、東泉院は廃寺となった。薬雄は還俗し六所良邑と名乗り、同地に定住した。

東泉院に伝わった資料群は古文書をはじめ、建造物関係資料、聖教資料、書画、民俗資料など多岐にわたっている。

古文書には、「今川義元判物」や「今川氏真朱印状」などの中世文書があり、今川氏の庇護のもと、東泉院は寺領安堵され、下方五社別当職を与えられていたことがわかる。近世文書では、「豊臣秀吉朱印状」や江戸幕府歴代将軍の領地朱印状の写しがあり、時の権力者から東泉院が朱印地190石を安堵されていたことがわかる。「検地帳」や「年貢割付帳」などもあり、領主としての東泉院の実態がわかる資料が多く残る。その他、「歴代住持帳」などから歴代の住持の事績が詳細にわかる。富士山に関する由緒などを記した「富士山大縁起」には、富士山を登った「赫夜姫」は、富士山の祭神「浅間大菩薩」だったという記述がみられ、富士山信仰の一端がわかる。

建造物関係資料には、東泉院境内の「庫裏」を造営したことや「宝蔵」を再建したことがわかる棟札類が残っている。また、下方五社の内、「六所宮」の修造や「日吉浅間宮」を再建したことがわかる棟札もある。

聖教資料には、真言宗の「最極」秘伝の法とされる三尊合行法の秘密の意義を説き記した「秘密源底口決」をはじめ、経典やその注釈書、仏事儀礼の次第作法などを記したものが多く残っている。

書画には、鎌倉時代後期の作と考えられる「釈迦三尊十六善神図」や、三十六歌仙の人物絵と和歌を書いた「三十六歌仙絵屏風」、郷土の画家である鈴木香峰が描いた襖絵などがある。

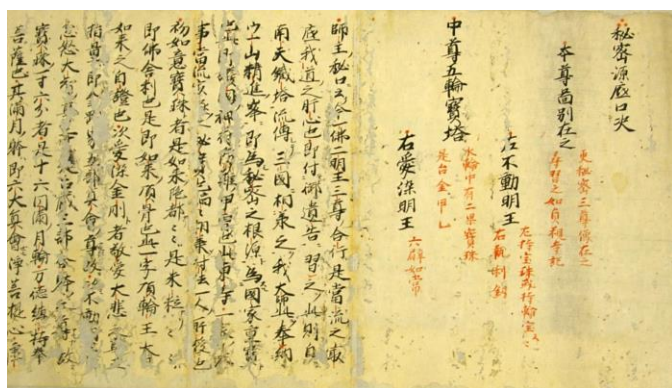
民俗資料では、「厨子入紅玻璃色阿弥陀如来・不動明王・愛染明王坐像」などの仏像や、「富士山」の山号を記した「山号額」、「五鈷杵」や「五鈷鈴」などの仏具など信仰関係資料が多く残る。

その他、東泉院跡地の発掘調査から、景德鎮などの貿易陶磁器や、焼塩壺など通常の寺院では入手困難な物が確認されている。

8 文化財としての価値

富士山東泉院関係資料は、古文書、棟札類、聖教資料、書画、民俗資料、考古資料などがあり、真言密教寺院として、また下方五社別当や領主としての東泉院の実態がわかる資料群である。また、東泉院という寺院の歴史だけではなく、市域の歴史や文化の一端がわかる資料であるため貴重である。

【写真】



秘密源底口決



厨子入紅玻璃色阿弥陀如来・不動明王・愛染明王坐像



釈迦三尊十六善神図



棟札（安政4年庫裏造立）



出土した貿易陶磁器
（景德鎮窯など）